

## 2020 年度財団賞および助成を決定

当財団(理事長:三毛兼承(三菱UFJ銀行取締役頭取執行役員)では、2020年12月に選考委員会(委員長:清水啓典 一橋大学名誉教授)および理事会による審査を経て、次のとおり2020年度の財団賞および研究・刊行に対する助成を決定しました。

### 【2020 年度全国銀行学術研究振興財団賞】

表彰者:青木浩介 東京大学大学院経済学研究科教授

賞金:100万円

表彰理由:マクロ経済学と金融経済学の理論研究において極めて優れた成果をあげ、その業績は高い評価を得ている。

### 【研究・刊行に対する助成】

研究に対する助成:29件(計1,750万円)

研究成果の刊行に対する助成:4件(415万円)

### 【2020 年度財団賞表彰状贈呈の様様】

例年、「財団賞表彰式および助成金贈呈式」を実開催しておりましたが、本年度はCovid-19の状況に鑑み、この式典を取りやめ、2021年2月5日(金)に2020年度財団賞表彰者青木浩介氏へ、理事長の代理として専務理事から表彰状を贈呈しました。



### 〔青木氏のコメント〕

私の研究分野は「金融政策」と「金融市場とマクロ変動の相互関連」であり、なぜ物価の安定が国民経済の健全な発展に資するのか、どのような物価をどの程度安定させれば良いか、また、経済主体が過剰な金融リスクを取るのどのような状況か等を中心課題としている。

金融市場や金融政策は、経済が安定している時には「良い金融政策は退屈であるべきものだ(Mervyn King 前イングランド銀行総裁)」という言葉のとおり、あまり注目を受けない存在である。その一方で、現在では、中央銀行からの情報発信が政策効果を高めるうえで非常に重要であり、家計や企業に注目してもらう必要があると考えられている。中央銀行のコミュニケーション政策は、まだ判らないことが多く残っており、引き続き研究を進めていきたい。

